

平成 18 年度

「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例」の出題の趣旨

第 1 問（配点 30 点）

事業展開および経営の独自性・独立性が担保されている子会社の事業展開に対して、資本関係のある出資企業（親会社）の与える何らかの影響に関して、中小企業診断士の立場から、その強みおよび弱みを分析する能力を問う問題である。

第 2 問（配点 30 点）

（設問 1）

A 社のビジョン実現に向けて不可欠となる黎明期にある海外事業を、今後、どのような方向で発展・拡大させていくべきかに関して、海外営業拠点の活用を中心に問う問題であり、中小企業の海外事業展開に関する基本的理解と助言能力を問う問題である。

（設問 2）

A 社のビジョン実現に向けて事業を拡大していく際に、主要顧客である出資企業の経営方針の変化に対して、どのような戦略的対応を図っていくことが重要であるかに関して、中小企業診断士としての助言能力を問う問題である。

第 3 問（配点 30 点）

（設問 1）

変化する経営環境の中で新規事業を展開していくに当たって、化学品の専門商社である A 社の現状の組織構造の問題点がどこにあり、その結果、どのような弊害が生じているかを分析する基本的能力を問う問題である。

（設問 2）

（設問 1）で分析した事実を前提に、今後、A 社が新規事業を展開していく上で構築すべき組織の編成に関して、基本的知識と助言能力を問う問題である。

第 4 問（配点 10 点）

近年改正された高年齢者雇用安定法に関する基本的理解と、その法令の施行が A 社の経営あるいは組織運営に及ぼす影響について分析する能力を問う問題である。

以上